

報道関係各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

本学学生がロボットアーム型のアプリ稼働監視サービスを開発

岩手県立大学（学長:鈴木 厚人）は、株式会社 DNP コミュニケーションデザイン（代表取締役社長:川口 寛）と共同で、ロボットアームが人に代わってスマートフォン向けアプリケーションの稼働を監視する「ロボットアーム型アプリ稼働監視サービス」を開発したのでお知らせいたします。ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、取材・報道についてよろしくお願ひします。

本システムは、ソフトウェア情報学研究科修士2年生・堀川研究室所属の井崎俊太郎が研究活動の一環で開発しました。AI（人工知能）を活用してアプリの操作や手順を覚えさせることで、定期的にロボットアームがアプリを操作し、ロボットアームと連動して設置したカメラを通じて正常な動作が可能かどうかを確認します。不具合を発見した場合、企業の開発・運用保守の担当者に、メールで障害の発生を報告します。

今後、学生ベンチャー企業を創業するとともに、本機器を用いたサービスを株式会社 DNP コミュニケーションデザインにて販売を行います。



ロボットアーム型アプリ稼働監視サービス

【開発の背景・特徴】

近年、生活に欠かせない多様なサービスがスマートフォンのアプリで提供されており、人々が利用する際に、常にアプリが正しく稼働するよう、管理の徹底が求められています。こうしたニーズに対して、アプリを運用するシステムの負荷や、エラー等のシステム障害を監視するサービスはあるものの、そのアプリが正しく画面やコンテンツを表示できているかといったインターフェースの不具合は監視できていませんでした。特に、各企業の自社開発ではない他社のアプリと連動したサービスでは、他社のアプリにロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）などを組み込むことができず、安定した稼働を確保するために、人が定期的にアプリの画面表示や動作を確認する必要がありました。

このような課題に対して岩手県立大学と DNP コミュニケーションデザインは、ロボットアームを活用して 24 時間 365 日監視できるアプリ稼働監視サービスを開発しました。